

市民グループとのタウンミーティング 議事概要

日 時	令和6年11月14日（金）午後16時00分～午後17時00分
グループ名	交野市校区福祉委員会
場 所	交野市立ボランティアセンター2階活動室
参加人数	20人

テーマ 交野市校区福祉委員会の活動について

趣 旨

【校区福祉委員会の概要について】

- 校区福祉委員会は小学校区単位で構成されており、各校区で活動をしている。委員会の構成は、区長、校長、民生委員、保護司、青少年指導員、自治会長、老人クラブの会長など、地域の皆さんで構成されている。皆さん主たる活動があるが、委員会の活動に参加していただいている。主たる活動があるため委員会の活動に参加しにくくとも、地域のボランティアの皆さんのおかげもあり活動を継続できている。校区によって異なるが50～80名程度で構成されている。活動は5ヵ年計画で現在は4期目である。行政の社会福祉計画が基本となっており、社会福祉協議会協力のもと、実際の活動に落とし込みをしている。小学校区単位で高齢者も含めた地域の皆さんに元気に活動してほしいことから「住民による 住民のための 自主的な組織」という目標のもとに活動をしている。漠然とした計画ではなく、社会福祉協議会で策定している交野市地域福祉活動計画に基づき、各地域の特性やニーズに合わせた取り組みを進めるためにアクションプランを作成している。大阪府の社会福祉の会議にてアクションプランを作成しているのは交野市のみと聞いている。高齢者も増えている中、地域のつながりを提供したいという思いも持っている。実際の活動は校区によって異なり特色もあるため、本日のタウンミーティングで紹介させてほしい。

【校区福祉委員会の共通活動（共通）と第3期地域福祉活動計画における新規事業について】

- 具体的な活動を紹介する。まず、「ごきげんさんあいさつ運動」である。各小中学校の校門前で子どもの登下校の見守りやあいさつ、声かけを実施している。それに加えて大きく3つの活動をしている。一つ目は「いきいき・ふれあいサロン」である。地域の高齢者の方を対象に仲間づくりや交流を行っている。フラワーアレンジメントや歴史かるた、落語など校区ごとに様々な活動をしている。二つ目が「世代間交流」である。主に小学生や幼稚園児を対象に昔遊びや昔の暮らしを伝承し、世代を超えた交流の場を提供している。校区により活動は様々だが以前はチューリップを植えたり、田植えも行った。三つ目は「子育てサロン」である。子供たちに土を触ってほしいという思いから、ジャガイモ、サツマイモ掘りなど様々な形で実施しており、子ども達からも喜んでいただいている。また育児相談も実施している。

現在、第4期地域福祉活動計画を実行している。平成29年～令和3年の第3期計画での新規事業では、「子ども関連」として、絵本の広場などを実施。また「高齢者関連」として、元気アップ体操、「共生型事業関連」として地域セミナー、共生型サロン、オレンジサロン（認知症の当事者と家族、地域住民の集う場）、「個別支援関連」として、お手伝いクラブ、星降る里絆ステーションを実施した。以上のように第3期計画では新しく20事業を立ち上げた。第4期計画においても新規

事業実施のためアンケートなどを行っている。

【校区福祉委員会立ち上げ時の様子や思いについて】

- 平成9年度の初年度から活動し、30年近く活動をしている。民生委員として活動していたが、校区福祉委員会の立ち上げにあたり各地域から委員長を選定する話になり、声をかけていただいたことから継続して活動をしている。北田市長が各校区の委員長を集めて会議を行ったことがあった。その際に市長から「皆さんの活動は地域を元気にしている。結果、病院が必要なくなる活動であり、建物の費用や人件費などといった、交野市の税金を使わない活動である。ぜひ今後も地域を元気にするように頑張ってもらいたい」と言われた。その言葉が心に残っており、その気持ちを継承し活動ができていると思っている。校区福祉委員会が頑張ると地域も頑張れる。コロナの際には、サロン活動が中止となり、200メートル歩くことも眩暈がして困難であるという声があった。やはりコミュニティがなくなると心も衰え、寂しくなり病気になる可能性も高くなると思う。初年度は5万円程度の活動費であったが、現在は10倍近くになっており、皆さん頑張って活動をしていると思っている。
- 校区福祉委員会は皆さんボランティアである。令和5年度は6,652名の方に協力いただいた。大変貴重なことである。委員長をはじめ皆さん頑張っている。高齢者の元気のためには、井戸端会議も重要である。コロナ禍ではそういった活動もできなかった。健康でいることは重要であり行政にも役立っていると自負している。

→〔市長〕地区のイベントなどには招待があれば参加している。今回、市長就任後はじめて校区福祉委員会からこのような機会を賜り感謝している。皆さんの活動を知る良い機会となった。交野市では区長制度があり、現在22地区ある。星田北が開発されたが、簡単に地区になれないという課題もある。自治会に加入していただけない、また自治会や町がない地域もある。しかし、そういった住民の方に対しても、市として情報提供は必要である。校区という必ずどこかに属していることをベースに活動することは、交野市全体の公平性や住民サービスの観点からも非常に有意義であると思っている。

交野市は小学校区で9区、中学校区では4区である。現在、交野市では老朽化した公共施設や学校施設について、できる限り改修を進めている。本年度、避難所でもある各中学校の体育館のエアコンについては設置を完了する予定である。私市小学校においても本年度、体育館のエアコン設置の工事をしている。来年度には倉治、藤が尾、旭、妙見坂の各小学校の体育館に避難所としてエアコンを設置する予定である。令和8年度には全ての小学校にエアコンを設置する予定である。より地域住民が各学校を拠点に活動しやすいように整備をしていきたいと考えている。交野市校区福祉委員会の活動は、大阪府の交付金を一度交野市で受け、一般財源を活用し、社会福祉協議会に協力をいただいている。今後もこの体制は変わらないと考えており、良い関係性は継続していきたい。市として皆さんが活動しやすいように意見を聞きながらハード面はできる限り支援をしていきたいと考えている。本日だけでなく、今後も皆さんの意見を聞く機会があればよいと思う。皆さんの活動を通じて全市民によりサービスを提供できており感謝している。今後も社会福祉協議会と連携をしながら校区の支援を行っていきたい。

意見

【各校区福祉委員会の活動について】

- 交野みらい校区福祉委員会
令和4年に長宝寺小学校と交野小学校が統合し交野みらい小学校ができた。我々の特徴は統合した関係で、子育てサロンが私部会館と交野みらい小学校の二か所に分かれていることである。また、いきいき・ふれあいサロンは私部会館と私部駅前住宅と梅が枝第一集会所に分かれている。この2つのサロンに関しては旧の状態で継続している。世代間交流については、一か所で行っていることが特徴である。特に子ども達に芋掘りなどの土を触っていただくような、自然と触れ合う体験も実施している。特殊詐欺防止活動も実施している。
- 倉治小学校区福祉委員会
当校区は1小学校1区である。そのため特徴が持てる。かたの郷土史かるた会や、ウォーキングビーなども行っているが、今年新しく2つの事業を始めた。一つは二中ワンダーランドにて倉治小学校区が今年初めて応援団として参加し、様々な出店(バザー、フランクフルト販売など)を行った。非常に地域の方から喜ばれた。また、かたの美来老人ホームでバザーも実施した。
- 郡津小学校区福祉委員会
子ども、高齢者向けの活動をしている。高齢者向けの活動として元気アップ体操やふれあいサロンを実施している。以前、ふれあいサロンで出張出前講座を実施。その際に健康増進課の職員から、交野市は平均寿命が高く健康寿命も高いと聞いた。病院を一つ建てなくてもよい活動であると思っている。活動の実績が向上していると思っている。
- 旭小学校区福祉委員会
星田西と星田山手という二つの大きな開発地がある。2025年問題があり、団塊の世代が後期高齢を迎える。高齢者も5人に1人は認知症になる。星田山手は昭和62年、星田西は平成2年に開発され、団塊の世代が多い。認知症に関心を持つ方や、認知症患者をもつ家庭の方に参加いただくサロンがオレンジサロンである。回数を重ね、20回目には市長にも来ていただいた。今後、オレンジサロンに関しては我々素人が行うのではなく、認知症の専門家が携わるべきではないかとも思っている。心のケアのため地域のつながりが重要であるとも考えている。今後ともよろしく願いしたい。
- 星田小学校区福祉委員会
防災訓練や地域をめぐるスタンプラリーを行っている。できれば周りの様々な団体とともに活動できればと考えている。旧の星田地区(旭、藤が尾、妙見坂小学校区)に協力を依頼し活動をしている。今年は、教育委員会から古い地図があるため活用してほしいと提案を受け、教育委員会との共催という形で活動を行った。
- 妙見坂小学校区福祉委員会
10月22日の記事で、介護保険だけではいけないと掲載されていた。やはり人と人とのつながりが重要であるとのことだった。まさに福祉委員会の活動である。当校区は様々な方が参加しやすいような活動を作っていこう、声掛けをしていこうという意図があるため、様々な活動をしている。無声映画、音楽祭、歌と朗読、ミニ文化祭などを行っている。今後も、様々な人に声をかけて活動をしていきたい。

- 岩船小学校区福祉委員会

8つの部会があり、ふれあいサロン、子育てサロン、世代間交流、パソコン教室、みんなで歌おう会、栗拾い体験等がある。各部会に部長がおり、年間スケジュール作成や、予算も組み立てていただいている。パソコン教室は18年間続いており、講師が5名、生徒が22名おり、1年間でマスターすべく、月3回教室を開催している。当校区には栗林もあるため、栗拾いもしており、年間500名の地域住民の方に来ていただいている。地域の子供達、学校の子供達にもアピールできており嬉しく思っている。また、お世話をしてくださっている方が真摯に対応してくれているため大変嬉しく思っている。

- 私市小学校区福祉委員会

お手伝いクラブを平成29年からスタートした。今まで86件、年平均12件、毎月1回皆さんのお手伝いをしている。例を挙げると、電球が切れ生活に支障が出でている場合、市役所に相談するには小さすぎるため、我々に申し出がある。夜も安心して暮らせると感謝される。そのような小さな福祉活動をしている。元気アップ体操も8年目になる。元気アップ体操の別名が、介護予防体操である。参加されている方も元気になっており、大変感謝されている。他市の統計で実際に要介護者が減ってきていると聞いている。介護予防に貢献できていると考えている。

- 藤が尾小学校区福祉委員会

平成17年から健康サロンを実施している。令和2年コロナ禍でイベントが中止になる中、人との関りで、心、体の病気、ストレスが軽くなることを新聞記事で知り、まちの保健室、よろづ相談、なごみの部屋を始めた。場所は藤が尾会館である。ピンポンサロン、健康相談、日々の悩み相談等、気になることを聞いてもらうことで気持ちが楽になると考え開催している。スタッフは元看護師、民生委員、校区福祉委員、社会福祉協議会職員、地域包括支援委員であり、相談内容の情報は漏れない立場の皆さんである。内容は血圧測定、健康、病気についての福祉相談をしている。また病院に行くようにアドバイスも行っている。重症にならなかった事例もある。ピンポンサロンでは、障がい者施設の心生会の利用者の協力を得て準備と片付けを行っている。

→〔市長〕各校区の活動報告感謝申し上げる。紹介いただいたイベントにもいくつか実際に行き、話を聞いている。地区だけでは対応できないことを様々な団体と協力し活動していることに関しても感謝申し上げる。特に元気アップ体操は介護予防の主要な活動の一つである。来年度交野市として元気アップ体操に加えて、より要介護に近い方を対象に、新たな介護予防の取り組みも展開する予定である。そのため皆さんの協力を賜りたい。医療や介護にプラスの影響があると思っているが、実績を数字で算出することは難しい。しかし、間違いなく有益であるため、市として各校区のきめ細かい住民サービスは社会福祉協議会と連携し支援していきたい。

- 校区福祉委員会の活動は成果が見えにくいですが、元気アップ体操に参加している方は初回よりも間違いなく元気になっている。しかし課題もある。まず後継者不足である。「私でもボランティアに参加できるのか」という声もあるため、積極的に声かけを行っていききたい。また、参加したくても行けない方もいる。参加している方は元気であるが、そうでない方がどのように参加してもらえるようにするか考える必要がある。

以上の様に様々な活動を校区で行っているため、今後ともよろしくお願ひしたい。